



1月からこども園で、マイコプラズマ感染症、インフルエンザB型、パラインフルエンザウイルス感染症に罹患したお子さんがいます。風邪症状（発熱・咽頭痛・頭痛・咳・鼻水・食欲不振・下痢など）がみられる場合は登園を控えていただき、医療機関を受診していただきますようお願いいたします。

なお、発熱して解熱後24時間経過した場合でも、咳や鼻水の症状がひどい、食欲がないなど、いつも通りの体調に戻らない場合は、自宅でゆっくり休んで全身状態が良くなってから登園するようにしましょう。

### 「パラインフルエンザウイルス」について

インフルエンザと似たような名前なので同じ病気かな？と思ってしまいますが、全く別のウイルスであり、感染症です。春から初夏の今の時期に流行します。

#### ○主な症状

発熱、咳、鼻水、喘鳴など。クループや中耳炎、胃腸症状と合併していることもあります。

#### ○潜伏期間

3～5日間

#### ○診断

迅速検査はなく、血液検査や他の感染症の除外で診断されます。

#### ○治療法

専用の治療薬はなく、予防のワクチン也没有せん。

治療は症状に応じた対処療法になります。

#### ○予防法

手洗いうがい、咳エチケット、よく触る場所や物の消毒

#### ○登園基準

パラインフルエンザは出席停止対象の疾患ではありませんが、熱や咳が落ち着き、全身状態が安定していることが登園できる目安になります。

パラインフルエンザはRSウイルス感染症と似た症状であり、繰り返しかかる感染症でもあります。インフルエンザほど重症度は高くありませんが、呼吸器症状が強く出やすいため、小さな子どもさんや喘息の既往があるお子さんは特に気を付けましょうね。

### 「マイコプラズマ感染症」について

#### ○主な症状

発熱や全身の倦怠感（だるさ）、頭痛、せきなどの症状がみられます（せきは少し遅れて始まることもあります）。せきは熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。

#### ○感染経路

感染した人の咳のしぶき（飛沫）を吸い込んだり（飛沫感染）、感染者と接触したりすること（接触感染）により感染する。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は2～3週間。

#### ○治療方法

マイコプラズマ感染症は、マクロライド系などの抗菌薬で治療されます。

#### ○予防と対策

手洗いはしっかりと。タオルの共用は避けましょう。

せきの症状がある場合には、マスクを着用するなど“咳エチケット”を守ることが心がけましょう。

#### ○登園基準

厚生労働省の[保育所における感染症対策ガイドライン](#)では、登園の目安として「**発熱や激しい咳が治まっていること**」とされています。

いつも通りの体調に戻ったなと思うまでは、お家で安静に過ごすのが振り返せないコツです。